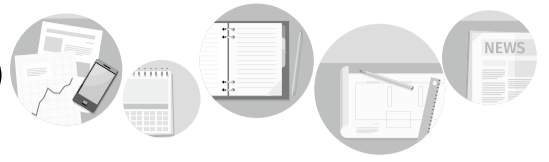




H.C.R. 2014 福祉機器利用者アンケート

回答の概要①



1 福祉機器情報の入手方法

(※複数回答可)

福祉機器情報の入手先は、昨年度に引き続いて、「福祉機器常設展示場」が20%と最も多く、次いで「介護ショップ」12%の順となりました。その背景には、上位の2つが、実際に機器を見たり、触れたりすることができる点にあるものと思われる。続いて、「各企業のホームページ」と「販売会社営業担当者」が8%を占め、その後に、「地域包括支援センター／在宅介護支援センター」「H.C.R.福祉機器情報サービスホームページ」がそれぞれ7%で並んでいます。

2013年の前回調査に比べて基本的な傾向は変わっていませんが、「医師・病院」や「新聞一般紙」が減った一方で、「福祉機器常設展示場」が19%から20%、「介護ショップ」が11%から12%、「各企業のホームページ」が7%から8%とそれぞれ微増しています。【本紙 P1 図1 参照】

2 相談窓口

(※複数回答可)

福祉機器を購入・レンタルするときに相談した窓口としては、2011年の調査から4年連続で「地域包括支援センター／在宅介護支援センター」が最も多くなり、26%と2ポイント増となりました。続いて、これも前回に引き続き、「販売企業の営業所窓口／営業員」が19%と2ポイント増となりました。また、この設問でも「福祉機器常設展示場」が昨年度の8%から9%へと伸びを見せた一方で、「医師・病院」が10%、「ホームヘルプ事業者」が5%と、それぞれ1ポイントずつ微減した結果となっています。【本紙 P1 図2 参照】

3 福祉機器の利用にあたって望まれること

(※3つまで選択可)

福祉機器の利用については、今回のアンケートでも多様なご意見・要望が出されましたが、最も多かったのが、「操作のしやすさ」で27%、続いて、「安全性」が19%と、いずれも前回調査と同様の順位、割合となりました。利用者の高齢化が進むなかで、操作が単純であること、分かりやすいこと、正確に使いこなせることが重視され、事故やトラブルのない安全性の高い機器が求められているという傾向は定着してきているものと思われる。

また、3番目は「価格の安さ」の14%で、これらの上位の順番はここ数年定着しています。また、一方で、「保証期間の長さ」なども前回調査からそれぞれ1ポイント増加しており、利用する際のニーズの多様化が進んでいることが回答結果から推察されます。【本紙 P1 図3 参照】

4 福祉機器の開発や利用についての意見・要望

価格の安さだけでなく、操作のしやすさや分かりやすさ、安全性などを求める声が多数を占めました。また、福祉機器の普及や実用が進むにつれての、個々の障害や年齢、性別などの特性に合わせた製品の設計、こまかなこだわりの開発視点への反映の希望、また、在宅介護の増加を踏まえ、サイズや設置条件への配慮を求める意見など、さまざまな意見・要望が寄せられました。

1. 使い方が簡便で、安全で、多様な身体の状態に対応できる機器を研究・開発して欲しい。多機能で単価が上がるよりも、シンプルでコストが下がる方がよいです。
2. お風呂介助をもう少し手際よくできたらと思っており、そういった入浴用品やリフトの開発を期待しています。
3. 肢体不自由に関する福祉機器の開発が、やや停滞してきている気がします。下枝筋力の低下が進んできており、こうした状況に手軽に対応し、補助できる機器があればと思っています。
4. ロボット化やデジタル化もよいのですが、利用者の立場に立った、利用者の自立を促す用具であってほしいと思います。
5. オプションで求めたい部品が本体のメーカーと違うために、今使っている機器では使用できない状況です。メーカー間の使用の汎用化、統一化を望みます。
6. 今後、将来的には女性が介助するケースも増えていくと思いますので、身長、手の大きさなどに考慮した製品のサイズや重量で製造してほしいと思います。
7. 一般の自動車に乗る際の踏み台のような機器があるとよいです。軽く折りたたむため、高さを変えられると重宝だと思います。
8. 手の不自由な人が使える製品、たとえば、自動車運転装置、パソコン入力装置、生活支援用品などのさらなる開発が進むとよいと思います。
9. 色々なメーカーの商品を見比べられるような、ショールームが増えるとよいです。行政などによる常設展示場にも期待しますが、メーカーの皆さんにも努力していただきたいです。
10. 視覚障害者向けの製品のなかでは、弱視用メガネの開発促進、質の向上を希望します。
11. より安全性の高い製品という点では、倒れない歩行器の研究・開発を進めてほしいです。
12. わが家は、階段を上りきったところの狭いスペースに引き戸の入り口があり、部屋に入れる構造になっています。こうした悪条件でも取り付けられる階段昇降機を開発・販売していただければと思います。
13. 片麻痺の方などが使いやすい自助具（たとえば、袋の口をむすぶ製品やバッグ、傘など）が少なくなってきている気がします。ぜひ充実をはかってほしいです。

14. メーカーの皆さんには、機器の仕様変更のインフォメーションをもっと徹底していただきたいです。
15. 「介護保険」で利用できる"福祉機器"は販売店も増え、利用しやすくなった（ケアマネさんに相談するとすぐに手配してくれる）が、障害者が利用したい機器の情報を得たり、すぐに試そうと思ったら、この"福祉機器展"に来るより他にはほとんど手段がありません。障害者向けの機器の情報を得られる機会を増やしてほしいです。
16. 自宅での介護となると、どこ家庭でも狭さとの戦いだと思います。狭いスペースで利用しやすい製品が増えることを望みます。
17. 今回の出展を見て、介助する側のシステムやロボット、補助機具が多かったように思いますが、介助される側が自立できるようにしていく、あるいは、そういった状態でも社会に貢献できることにつながる機器の開発・普及という側面がもっと必要ではないかと感じました。
18. 福祉車両は高齢者や障害者を乗せる視点に偏重しており、自分で運転するという視点の機器が少ないと思いました。
19. 機器の進歩によって便利になるのはよいのですが、残存機能をうばうことがない機器・用具という意識を失わないようにしてほしいです。
20. 在宅重症心身障害者の介助（全面）に役立つ機器の不足を感じます。さらなる開発を望みます。
21. 福祉機器の開発においても、災害への配慮は大切だと思います。災害時に対応した機器のバリエーションやその使用方法が知りたいです（バッテリーなど）。
22. 片麻痺の方を対象とした製品について、(1)外出する際の長靴が見つかりません。短下肢装具使用中の50歳代女性ですが、デザインも気に入るものがなかなかありません。(2)冬場に着替えをしているときに、健側上肢の肌着が長袖を着た際にまくれ上がってしまいます。数枚着用した際の中側の衣類がまくれ上がってしまったときに直せる自助具がほしいです。
23. 最近の事故の報告などを耳にすると、電動車いすをもっと安定性のあるものにしてほしいと思います。
24. 今日の入浴装置の進歩は著しいですが、家庭用の適当な装置はまだ少ないと思います。今後、高齢者が急増して家庭介護が増えると、入浴が一番大変になります。ベッドの上で入浴できる浴槽があれば利用したいですが、現状では、おぼれる危険性やサイズが大きすぎたりして、体も不安定で、安心できません。裸でいる時間をできるだけ短時間にして入浴できる良品を開発してほしいです。



回答の概要②（福祉機器に対する不満）については、次号に掲載いたします。